漢文入門

故事成語　―　現代語訳　―

朝三暮四

宋の国に「狙公」と呼ばれる者がいた。猿をかわいがり、飼っている猿が群れをなしていた。（「狙公」は）猿の気持ちを理解することができ、猿もまた「狙公」の気持ちを知ることができた。（「狙公」は）家族の食糧を減らして（までも）、猿の食欲を満たした。まもなくして（食糧が）少なくなった。（そこで、）猿のえさを制限しようとした。（だが、）猿の群れが自分に懐かなくなることを心配して、まず猿をだまして言った、「お前たちにどんぐりの実をやるのに、朝に三つで暮れに四つにしたい。足りるか。」と。（すると、）猿の群れは皆立ち上がって（少ないと言って）怒った。まもなくして言った、「お前たちにどんぐりの実をやるのに、朝に四つで暮れに三つにしたい。足りるか。」と。猿たちは皆腹ばいになって喜んだ。